

葡萄 (一)

大 岩 金

今回は葡萄に就て少し申してみませう。極難と剪定位のことを書くことにしやうかとも考へました。がやはり一寸庭先へ葡萄棚を造つてもあまり人

目に笑はれぬ様にするためにはと思ひますと多少でも役に立つ様にとすこし詳細に書いておく必要がありますので中間位の所を以下に記します。

一、種類

歐洲種といふ總稱名があります。この種は一般に香氣があつて甘味に富み、實が離れ易いので生食用として適して居ります。が樹勢が弱く氣候に對する抵抗力が弱いのであります。

米國種、これは前種に反し酸味があり、甘味が

少なく實離れ惡く臭氣がありますので生食用としては不適當であります。が樹勢強く、富産であります。が氣候に抵抗する力は弱いのであります。

右の様な次第でありますから一般に栽培するにはいづれを採用するかと申しますにその目的で異なる事は勿論であります。が都會の近くでは歐洲種を選んだ方が有利であります。

次に目的に依つて分類すれば次の様に分ける事が出来ます。

- 一、生食用
- 二、造酒用
- 三、乾果用

で右の様に分けますと(一)は當然歐洲種が當てられ(二)は富産種が當てられるのであります。即ち甘味は少なくても糖分の補給に依る事が出来るのであります。従つて米國種が選ばれるのであります。(三)としての要件は無實な事が必要であります。

次には生食用としての種類を少しあげます。

ブラツクハンブルグ、ホウスタシイドリング、ゴールデンチャンピオン、レデーワシントン、甲洲

名 稱	果穗粒ノ形狀粒ノ大小	色澤品質熟期	收量樹勢
ブラツクハンブルグ	大 圓	黒 上	九中下 多 強
ゴールデンチャンピオン	大 橢圓	白黄上	十下 多 強
レデーワシントン	大 圓	白黄上	八下九上 多 強
甲 州	大 橢圓	紅紫上	十中 多 強

二、風 土

溫和な地方を最も適當としますが攝氏〇下十九

度位迄は生育しますが〇下三十度以下になりますと殆ど生育出来ないものであります。それ故あまり寒い地方でありますと冬中は蔓を地中に埋めておく必要があるのですが、又氣候が乾燥して居りますれば、相當の低温にも耐へ得るのであります。即ち甲府方面では相當寒いのであります。乾燥した氣候のために被害なく良結果が得られるのであります。で山形、青森等の様な寒地でも氣候が乾燥して居りますため、栽培する事が出来ます。即ち前地方では歐洲種、後地方では米國種を栽培するのであります。關西地方にありましては氣溫の點では充分であります。濕度の關係上良結果が得難いのであります。併して栽培はなるべく傾斜地を撰ぶのが便利であります。

土質も各種のものに適して居りますが粘重の地に出来たものは色濃く味も濃いので、造酒に適して居ると申しますが砂土でありますとは反

した結果が得られます。従つて礫質壤土が最も適當してゐるといふべきであります。

三、栽培法

繁殖は一芽挿を主とするものでありまして、最も簡單に行はれるものであります。例へばこれから剪定するのでありますが、その時の枝の強健なものを撰んで一芽宛に切つて挿せば宜しいのであります。挿す場所も特に鉢に砂等を入れたものを用ひなくても畑土で充分間に合ひます。併し葡萄の害敵フィロキセラの被害を除くためには接木を行ふのであります。

植付距離は垣根としては一間四方に一本、柵にして一畝一本位にするのであります。

結實の習性は本年發生した蔓に結實するものでありまして幹から三、四、五、六節に結實するのを普通と致しますが、蔓の丈夫なものにありましては一、二節に結實することもあります。かゝる

場合には七、八節にも結實する事もあります。

種蔓は前年の枝に本年生じた蔓に結實するものがあります。弱い蔓には結實しないのであります。この點は柿等と同様のものであります。

剪定法、是を分けて長梢、短梢の二方法と致します。長梢剪定の方法は八——十二芽即ち六、七十穂位とします。野外に行ふ方法であります。併して元の方の芽から生じた蔓には結實させないで豫備蔓として來年の結實に役立たせるのであります。短梢剪定は二——三芽位で剪除するのであります。この方法では來年の豫備蔓を保存しておく必要はありません。昨年の蔓が直ちに結實蔓に出来るのでありまして、この方法は主に温室等に用ひられますが、垣根等に用ひても便利であります。種類で申しますと米國種のは、長梢剪定とした方がよいのであります。特にこの種の中には幹の近くより先の方に優良の芽を生ずるものがあります。是に反して歐洲種は比較的幹の元の方に強い芽を生ずるのが常でありますから、短梢剪定を採用する方が有利であります。